

経済情勢

(7月の経済指標を中心に)

全国、中国ともに、景気は、一部に弱さがみられるものの、緩やかに持ち直している。先行きについては、世界的な金融引き締め等を背景とした海外経済の下振れや物価上昇などによる経済活動への影響が懸念される。

(全国)

個人消費	緩やかに持ち直している
住宅投資	新設住宅着工戸数（7月）は前年を下回った
設備投資	機械受注（7月）は前年を下回った
公共投資	公共工事請負額（7月）は前年を上回った
輸出	輸出金額（7月）は前年を下回った
生産動向	横ばい圏内の動きとなっている
雇用情勢	緩やかに持ち直しているものの、一部の産業では求人を減らす動きもみられる

(中国)

個人消費	緩やかに持ち直している
住宅投資	新設住宅着工戸数（7月）は前年を下回った
公共投資	公共工事請負額（7月）は前年を上回った
輸出	輸出金額（7月）は前年を下回った
生産動向	横ばい圏内の動きとなっている
雇用情勢	緩やかに持ち直しているものの、一部の産業では求人を減らす動きもみられる

1. 景気動向指数 (C I) (7月)

(全国) 一致指数は6カ月ぶりに低下している。

(中国) 一致指数は2カ月ぶりに低下している。

(全国)

- ・一致指数は114.5 (前月差▲1.1ポイント) と6カ月ぶりに低下。
- ・先行指数は107.6 (同▲1.2ポイント) と2カ月連続で低下。



C I 一致指数 (前月差) ▲1.1

指標名	寄与度
耐久消費財出荷指数	▲0.64
投資財出荷指数 (除輸送機械)	▲0.54
鉱工業生産指数	▲0.35
鉱工業用生産財出荷指数	▲0.18
有効求人倍率 (除学卒)	▲0.12
労働投入量指数 (調査産業計)	▲0.01
営業利益 (全産業)	0.01
商業販売額 (卸売業)	0.11
商業販売額 (小売業)	0.16
輸出数量指数	0.45

C I 先行指数 (前月差) ▲1.2

指標名	寄与度
最終需要財在庫率指数 (逆)	▲0.73
新設住宅着工床面積	▲0.43
中小企業売上げ見通し D I	▲0.31
マネーストック (M2)	▲0.18
鉱工業用生産財在庫率指数 (逆)	▲0.05
東証株価指数	0.03
日経商品指数 (42種総合)	0.07
新規求人数 (除学卒)	0.10
消費者態度指数	0.37
実質機械受注 (製造業)	
投資環境指数 (製造業)	

(中国)

- ・一致指数は85.1 (前月差▲3.1ポイント) と2カ月ぶりに低下。
- ・先行指数は80.7 (同▲2.9ポイント) と2カ月ぶりに低下。



C I 一致指数 (前月差) ▲3.1

指標名	寄与度
通関輸入額	▲1.40
有効求人倍率	▲1.02
最終需要財出荷指数	▲0.72
生産財出荷指数	▲0.42
所定外労働時間 (製造業)	▲0.05
全産業業況判断 D I	0.01
鉱工業生産指数	0.45

C I 先行指数 (前月差) ▲2.9

指標名	寄与度
新設住宅着工戸数	▲1.23
鉱工業製品在庫率指数 (逆)	▲1.18
新規求人倍率	▲1.09
建築物着工床面積	▲0.30
銀行貸出残高 (前年比)	▲0.06
生産財生産指数	▲0.05
中小企業業況判断 D I 次期見通し	0.09
消費者態度指数	0.10
実質百貨店販売額 (前年比)	0.85

注：1. 景気動向指数 (CI) は景気変動の大きさやテンポ (量感) を測定することを目的としている。

2. 景気動向指数とは、生産、雇用など重要かつ景気に敏感な指標の動きを統合することによって、景気の現状把握および将来予測に資するために作成されたもので、景気に対し先行して動く先行指数、ほぼ一致して動く一致指数、遅れて動く遅行指数の3本の指数がある。

3. 全国と中国地域の景気動向指数は、採用している経済指標が異なるため、水準や前月差などを一概に比較することは適切ではない。

資料：全国は内閣府「景気動向指数 (速報)」、中国は当社で作成

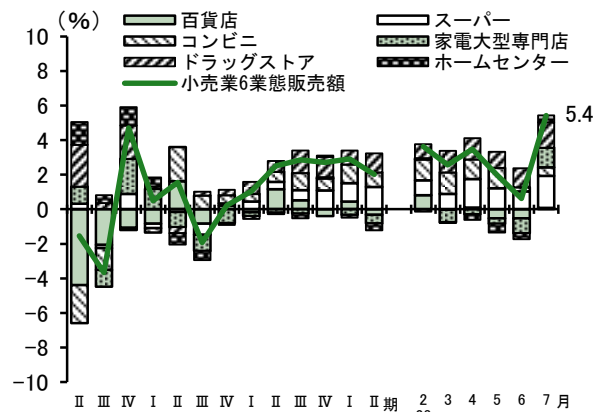
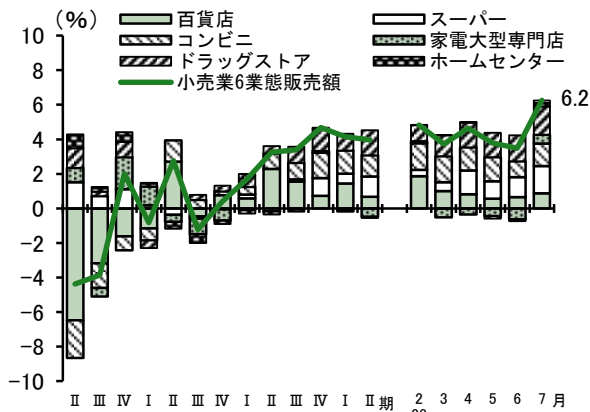
2. 個人消費 (7月)

全国、中国ともに、緩やかに持ち直している。

● 小売業6業態販売額 [対前年伸び率]

(全国) スーパー、ドラッグストアなどを中心に6業態全てが増加し、20カ月連続で前年比プラス(前年同月比+6.2%)。猛暑の影響で盛夏商材が好調に推移したほか、家族向けイベントや納涼行事等が増えたことで購買需要が高まった。また、物価上昇により食品等の販売額が増加した。

(中国) スーパー、ドラッグストアなどを中心に6業態全てが増加し、20カ月連続で前年比プラス(前年同月比+5.4%)。全国と同様、猛暑の影響で盛夏商材が好調に推移したほか、家族向けイベントや納涼行事等が増えたことで購買需要が高まった。また、物価上昇により食品等の販売額が増加した。



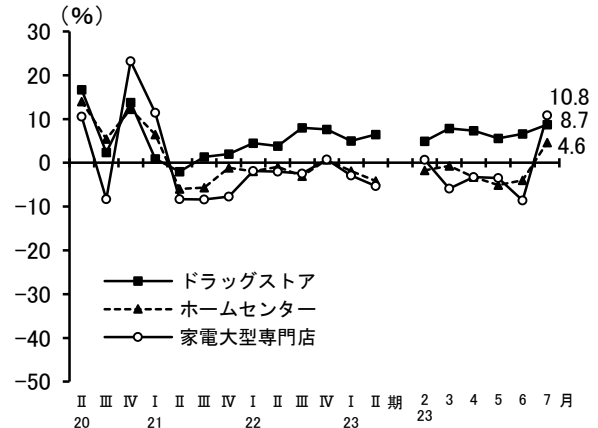
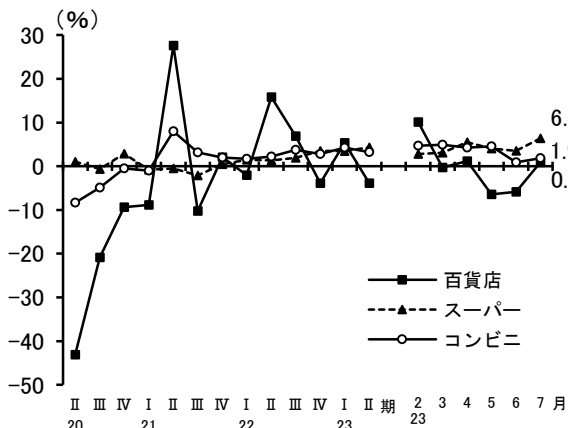
注：1. 全店舗ベース 2. 小売業6業態は、百貨店、スーパー、コンビニエンスストア、家電大型専門店、ドラッグストア、ホームセンター
資料：経済産業省「商業動態統計月報」

○ 百貨店・スーパー・コンビニエンスストア販売額 [対前年伸び率]

○ ドラッグストア・ホームセンター・家電大型専門店販売額 [対前年伸び率]

(中国)
 ・百貨店は、中元が振るわなかったものの、気温上昇と外出需要の高まりから夏物衣料や旅行カバン等が好調となり、3カ月ぶりに前年比プラス(前年同月比+0.9%)。
 ・スーパーは、価格上昇や猛暑の影響から、飲料、アイス等が好調だったほか、土用の丑の日にうなぎが良く売れたこと等で、13カ月連続で前年比プラス(同+6.4%)。
 ・コンビニは、価格上昇が続く中、猛暑の影響や行楽需要の回復から、飲料、アイス等を中心に販売が増加し、20カ月連続で前年比プラス(同+1.9%)。

(中国)
 ・ドラッグストアは、新店・改装効果で食品が好調だったほか、総合感冒薬が多く売れた。外出関連用品も好調に推移し、19カ月連続で前年比プラス(前年同月比+8.7%)。
 ・ホームセンターは、引き続きペット用品が好調だったほか、梅雨明け以降の気温上昇の影響で盛夏商材が好調に推移し、7カ月ぶりに前年比プラス(同+4.6%)。
 ・家電大型専門店は、気温上昇の影響により、エアコン、冷蔵庫等がよく売れたほか、デジタルカメラも好調に推移し、5カ月ぶりに前年比プラス(同+10.8%)。

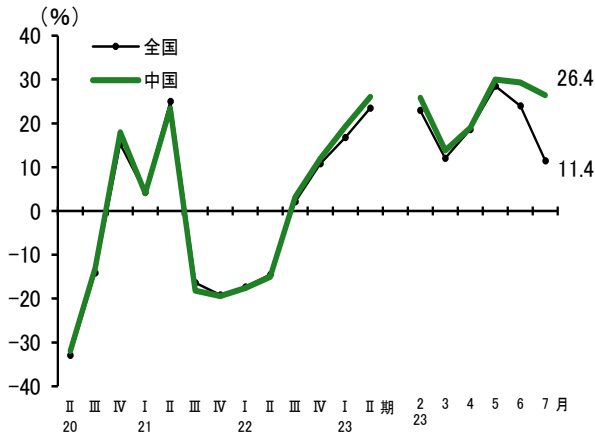


注：全店舗ベース
資料：経済産業省「商業動態統計月報」

● 新車登録・届出台数 (乗用車) [対前年伸び率]

(全国) 普通、小型乗用車がいずれも増加し、11 カ月連続で前年比プラス (前年同月比+11.4%)。部材の供給状況は好転しているものの、軽自動車は一部工場の稼働停止の影響等による落ち込みがみられた。

(中国) 普通、小型乗用車がいずれも増加し、11 カ月連続で前年比プラス (同+26.4%)。全国と同様、部材の供給状況は好転しているものの、軽自動車は一部工場の稼働停止の影響等による落ち込みがみられた。

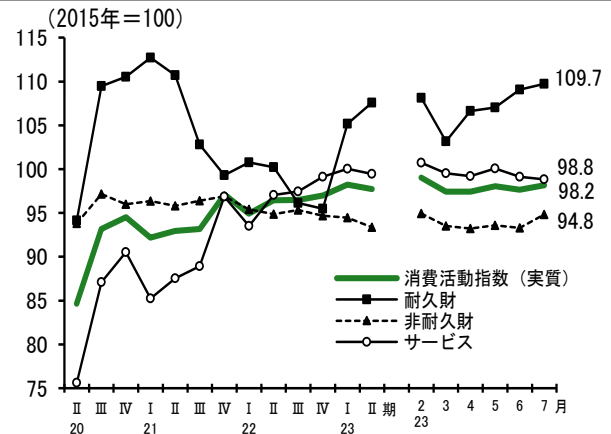


資料：中国運輸局「新車登録・届出状況」、
(一社) 全国軽自動車協会連合会「軽自動車新車販売統計」

● 消費活動指数 (実質)

(全国) 消費活動指数 (季節調整済) は 98.2 (前月比+0.5%) と 2 カ月ぶりに前月を上回った。

- ・耐久財は、前月から上昇した。新車の供給制約の緩和等により、前年の低水準から回復傾向にある。
- ・非耐久財は、前月から上昇した。好天や気温高により、盛夏商材を中心に好調だった。
- ・サービスは、これまでの上昇の反動で、飲食等を中心に若干低下した。



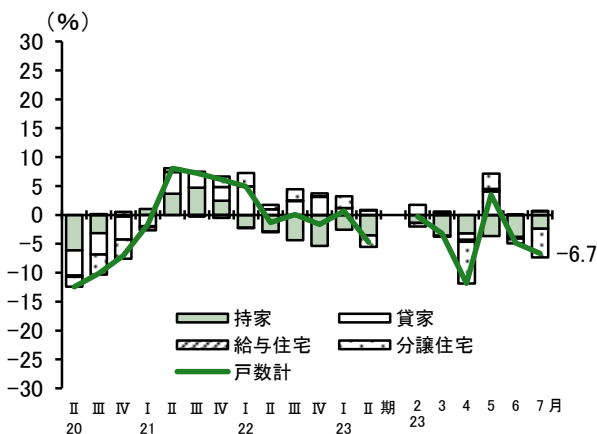
注：1. 季節調整済指数
2. 消費活動指数の形態別ウエイトは、耐久財 8.9、非耐久財 40.5、サービス 50.7
資料：日本銀行「消費活動指数」

3. 住宅投資 (7月)

新設住宅着工戸数は、全国、中国ともに前年を下回った。

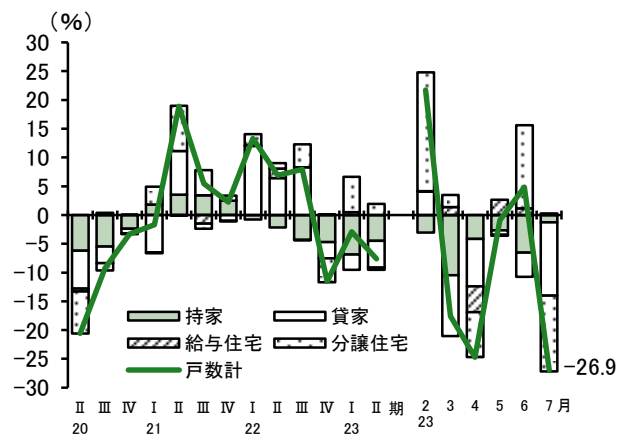
● 新設住宅着工戸数 [対前年伸び率]

(全国) 貸家が増加したものの、分譲住宅、持家が減少し、2 カ月連続で前年比マイナス (前年同月比▲6.7%)。



注：持家、貸家、給与住宅、分譲住宅は、新設住宅着工戸数の対前年伸び率に対する利用関係別寄与度
資料：国土交通省「建築着工統計調査報告」

(中国) 給与住宅が増加したものの、分譲住宅、貸家、持家が減少し、2 カ月ぶりに前年比マイナス (前年同月比▲26.9%)。



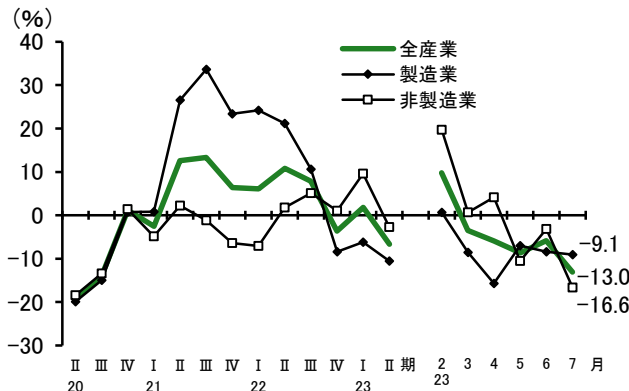
4. 設備投資・公共投資（7月）

機械受注（全国）は、製造業、非製造業ともに、前年を下回った。
公共工事請負額は、全国、中国ともに前年を上回った。

● 機械受注額 [対前年伸び率]

(全国)

- ・ 5カ月連続で前年比マイナス（前年同月比▲13.0%）。
- ・ 製造業（同▲9.1%）は、パルプ・紙・紙加工品などが増加したものの、電気機械、造船業などが大幅に減少し、5カ月連続で前年比マイナス。
- ・ 非製造業（同▲16.6%）は、金融業・保険業などが増加したものの、運輸業・郵便業、通信業などが大幅に減少し、3カ月連続で前年比マイナス。



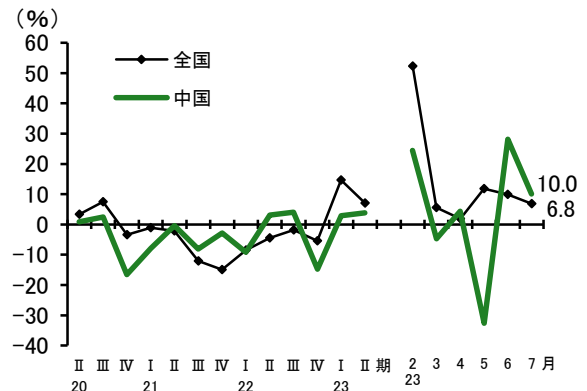
注：機械受注額は民需の合計であり、全産業、非製造業とも船舶・電力を除く数値

資料：内閣府「機械受注統計調査報告」、北海道建設業信用保証㈱、東日本建設業保証㈱、西日本建設業保証㈱「公共工事動向」

● 公共工事請負額 [対前年伸び率]

(全国) 国、地方公社、都道府県からの発注が減少したものの、市区町村、独立行政法人からの発注が増加し、6カ月連続で前年比プラス（前年同月比+6.8%）。

(中国) 独立行政法人からの発注が減少したものの、国、県、市町村からの発注が増加し、2カ月連続で前年比プラス（同+10.0%）。

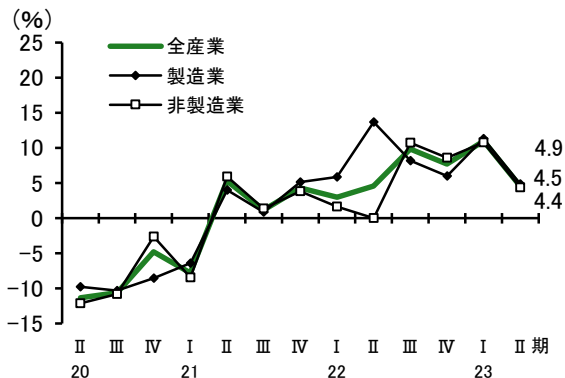


● 法人企業統計（2023年4-6月期）

設備投資額 [対前年伸び率]

(全国)

- ・ 4-6月期の設備投資額は、9四半期連続の前年比プラス（前年同期比+4.5%）。
- ・ 製造業は9四半期連続のプラス（同+4.9%）。
- ・ 非製造業は4四半期連続のプラス（同+4.4%）。



注：1. 金融業・保険業を除くベース

2. ソフトウェア投資額を含む

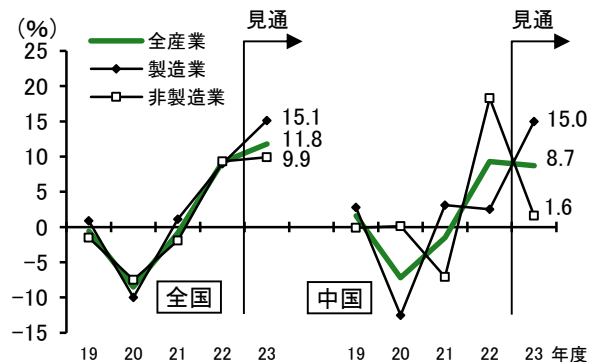
資料：財務省「法人企業統計」

● 企業短期経済観測調査（日銀短観2023年6月調査）

設備投資額 [対前年伸び率]

(全国) 2023年度の設備投資は、2年連続で前年を上回る見通し（前年度比+11.8%）。製造業、非製造業ともにプラス。

(中国) 2023年度の設備投資は、2年連続で前年を上回る見通し（同+8.7%）。産業別では、製造業、非製造業ともにプラス。



注：1. 企業短期経済観測調査（短観）は四半期ごとに公表されている

2. 土地投資額を含む、ソフトウェア投資額と研究開発投資額は含まない

資料：日本銀行「短観（全国企業短期経済観測調査）」、
日本銀行広島支店「企業短期経済観測調査結果の概要」

5. 輸出・輸入(7月)

輸出金額は、全国、中国ともに前年を下回った。

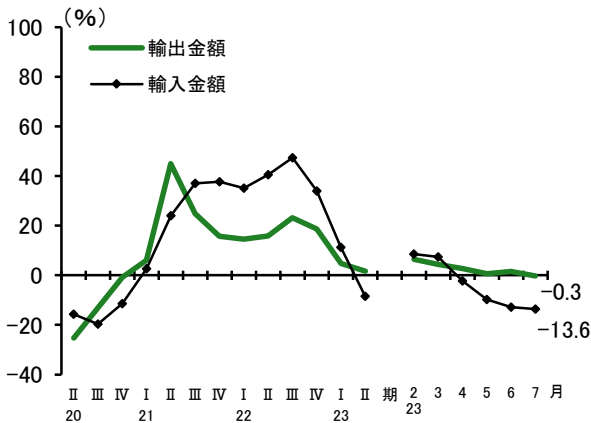
● 輸出・輸入金額 [対前年伸び率]

(全国)

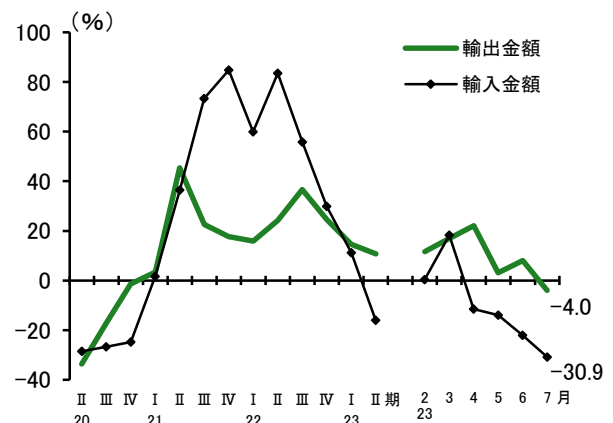
- ・輸出金額は29カ月ぶりに前年比マイナス(前年同月比▲0.3%)。品目別にみると、供給制約の緩和等による影響で、前年が低水準だった自動車が増加したものの、石油製品(軽油等)、半導体等電子部品、有機化合物などが減少した。
- ・輸入金額は4カ月連続の減少で前年比マイナス(同▲13.6%)。品目別にみると、資源価格の下落等により、石炭、液化天然ガス、原油などが減少した。

(中国)

- ・輸出金額は21カ月ぶりに前年比マイナス(前年同月比▲4.0%)。品目別にみると、自動車、科学光学機器等は増加したものの、石油製品(灯油、軽油等)、鉄鋼、化学製品(有機化合物等)などが減少し、前年比マイナスに転じた。
- ・輸入金額は4カ月連続の減少で前年比マイナス(同▲30.9%)。品目別では資源価格の下落等により、原油、石炭、石油製品(重油等)などが減少した。



注: 1. 輸出金額、輸入金額は円ベース 2. 輸出確報; 輸入速報(9桁)
資料: 財務省「貿易統計」、神戸税関「中国圏・各県貿易統計」



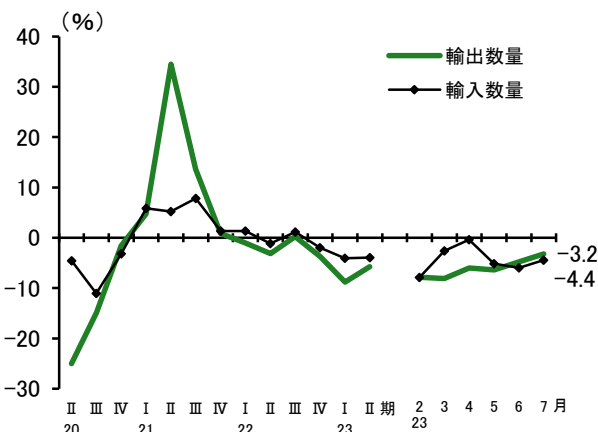
● 輸出・輸入数量 [対前年伸び率]

(全国)

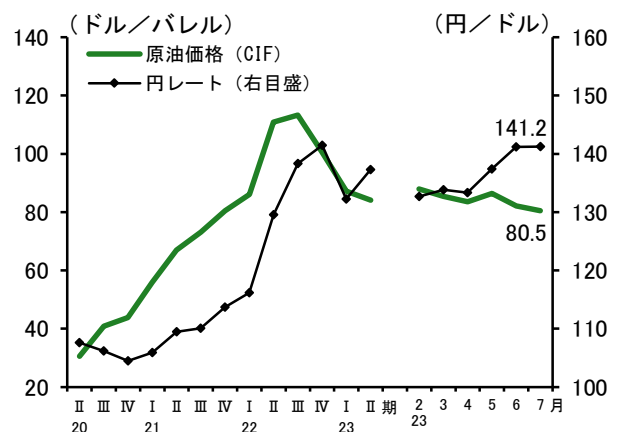
- ・輸出数量は10カ月連続の前年比マイナス(前年同月比▲3.2%)。
- ・輸入数量は9カ月連続の前年比マイナス(同▲4.4%)。

● 原油価格・円レート

- ・原油価格は80.5ドル/バレルと前年に比べ35.9ドル低下(前月に比べ1.7ドル低下)。
- ・円レートは141.2円/ドルと前年に比べ4.6円の円安(前月差は±0.0円/ドル)。



注: 1. 輸出数量、輸入数量とも2015年=100とした指数 2. 輸出確報; 輸入速報(9桁) 3. 原油価格は全日本通関CIF価格
4. 円レートは東京外国為替市場の銀行間中心レートの月中平均値
資料: 財務省「貿易統計」



6. 生産動向 (7月)

全国、中国ともに、横ばい圏内の動きとなっている。

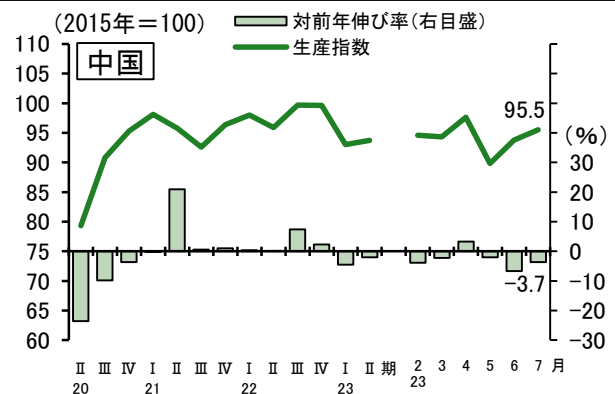
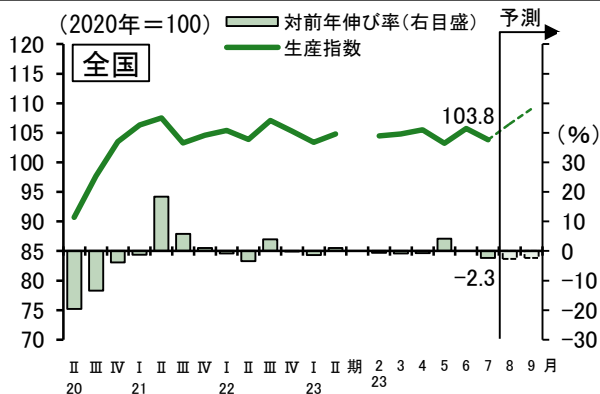
● 鉱工業生産指数 (総合)

(全国)

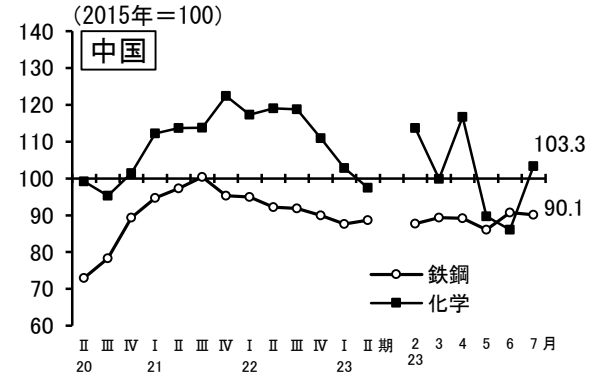
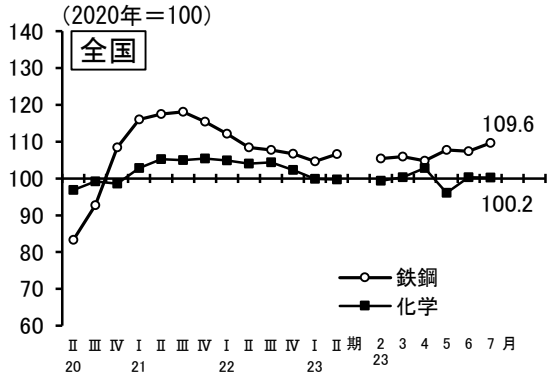
- ・生産指数 (季節調整済) は、103.8 (前月比▲1.8%) と2カ月ぶりに前月を下回った。部材供給不足の緩和等により自動車が増産基調を維持したものの、国内外からの受注が減少したことで、汎用・生産用・業務用機械、電気機械などが低下した。
- ・生産指数 (原指数) は前年同月比▲2.3%と3カ月ぶりにマイナスとなった。

(中国)

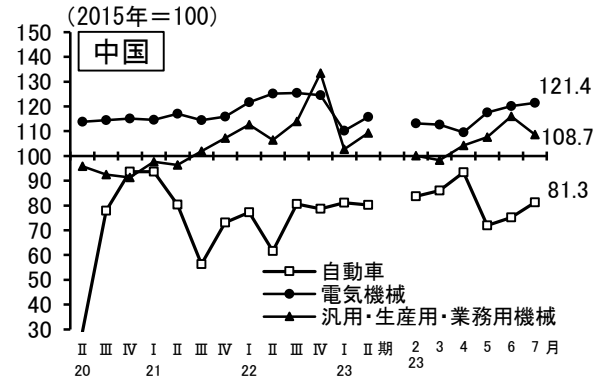
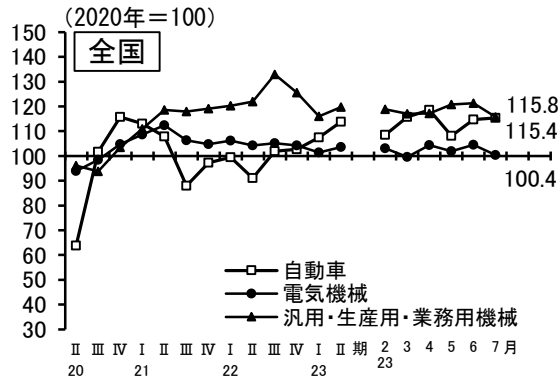
- ・生産指数 (季節調整済) は、95.5 (前月比+1.8%) と2カ月連続で前月を上回った。前月に生産集中した反動で汎用・生産用・業務用機械工業が低下したものの、医薬品の生産増により化学が高い伸びとなったほか、自動車、電気機械なども上昇した。
- ・生産指数 (原指数) は、前年同月比▲3.7%と3カ月連続でマイナスとなった。



● 鉱工業生産指数 (素材)



● 鉱工業生産指数 (機械)



注：1. 生産指数は季節調整済指数 2. 生産指数の対前年伸び率は原指数による 3. 予測値は「製造工業生産予測調査」の製造業の値を基に算出
 4. 中国の最新月は速報値 5. 2023年4月確報分より、全国の鉱工業指数の基準年が2015年から2020年に改定された
 6. 「電気機械」は1995年基準の業種分類を適用 (電気機械工業、情報通信機械工業、電子部品・デバイス工業の合計)
 7. 「汎用・生産用・業務用機械」は全国では2010年基準の業種分類を適用 8. 「自動車」は中国では「輸送機械工業 (自動車・同部品)」
 資料：経済産業省「鉱工業 (生産・出荷・在庫) 指数確報」「製造工業生産予測調査」、中国経済産業局「中国地域鉱工業生産動向」

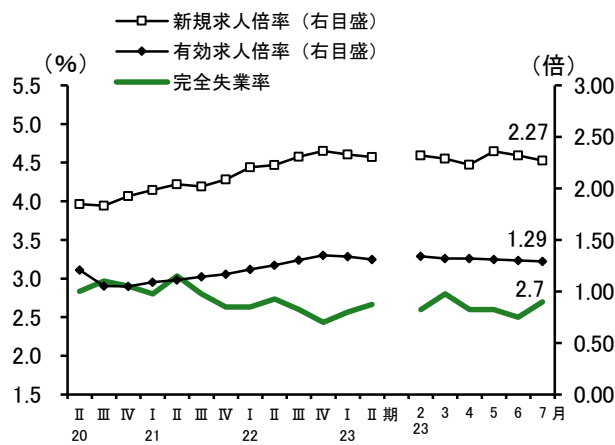
7. 雇用情勢(7月)

全国、中国ともに、緩やかに持ち直しているものの、一部の産業では求人減らす動きもみられる。

● 完全失業率、有効求人倍率、新規求人倍率

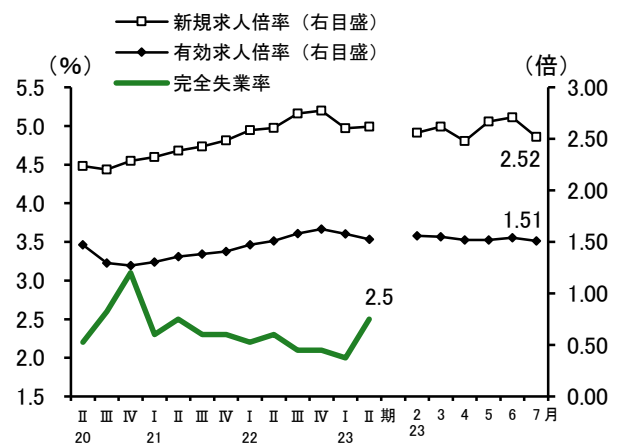
(全国)

- ・完全失業率は2.7%(前月差+0.2ポイント)と2カ月ぶりに上昇した。
- ・有効求人倍率は1.29倍(同▲0.01ポイント)と3カ月連続で低下した。
- ・新規求人倍率は2.27倍(同▲0.05ポイント)と2カ月連続で低下した。

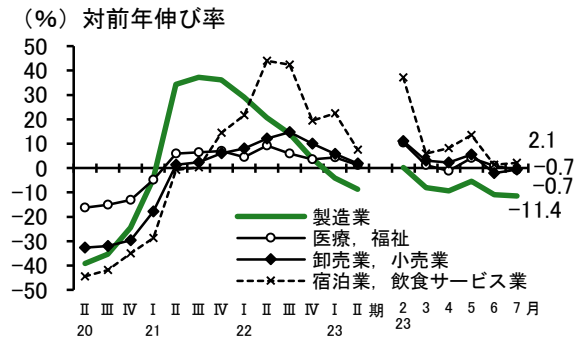


(中国)

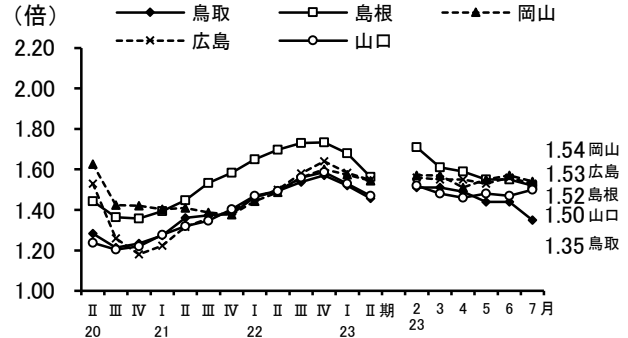
- ・有効求人倍率は1.51倍(前月差▲0.03ポイント)と3カ月ぶりに低下した。
- ・新規求人倍率は2.52倍(同▲0.19ポイント)と3カ月ぶりに低下した。



主要産業における新規求人数の推移(全国)



有効求人倍率の推移(中国5県)



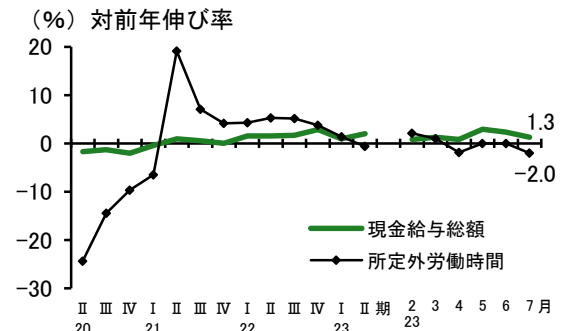
注: 完全失業率の月次、有効求人倍率、新規求人倍率は季節調整値、完全失業率の四半期は原数値

資料: 総務省「労働力調査報告」、厚生労働省「職業安定業務統計」

● 現金給与総額、所定外労働時間

(全国)

- ・現金給与総額は19カ月連続で前年比プラス(前年同月比+1.3%)。
- ・所定外労働時間は3カ月ぶりに前年比マイナス(同▲2.0%)。うち製造業は7カ月連続で前年比マイナス(同▲6.2%)。



注: 1. 事業所規模5人以上の指数(2020年=100)の対前年伸び率 2. 最新月は速報値

資料: 厚生労働省「毎月勤労統計調査」